

はるか

ゆたかな暮らしの
情報紙

令和6年 夏号

「ありがとう」を花せるお葬式
東京 千葉 埼玉 神奈川



株式会社 孝行舎

— お見積り無料 ご相談随時受付 —

本社：東京都足立区中央本町 4-17-2
葬儀サロン：東京都足立区中央本町 1-19-2
赤坂営業所：東京都港区赤坂2-14-5 Dalwa赤坂ビル7階



0120-81-5548

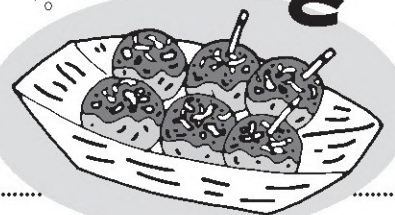
孝行舎 検索

深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

- すこやか「食」の旅 ——— たこ焼き
- ご存じですか? ——— 「伊能忠敬」
- 伝統のモノ ——— テディ・ベア
- 花ものがたり ——— スイレン
- 生活の中の仏教語 ——— 食堂
- 仏事と葬儀の知識 ——— 葬儀と告別式の違い

すこやか
「食」の旅

たこ焼き



◆「たこ焼き」って？

もし「たこ焼き」を知らない人に「たこ焼きってどんな食べもの？」と聞かれたら、皆さんは何と答えるでしょうか。

「たこ焼き」を辞書で引いてみると、

たこやき(蛸焼)——溶いた小麦粉に卵を混ぜ、刻んだ蛸・天かす・ねぎなどを加え、鉄製の型に流しこんで、球形に焼き上げた食品。ソース・青のり・削りぶしなどを掛けて食する。大阪から全国に広まる——とあります。

ひと口で食べられるまん丸い姿にソースをまとい、青のりや削りぶしをトッピングした独特の味と香りは、さすが日本独自のソウルフードです。家庭用のたこ焼き器も出回っているいまでは、家族の好みで意外な具材を加えるなど、バラエティーに富んだ我が家のたこ焼きも誕生していると思われますが、やはり、ソースに青のり、削りぶしといった定番の材料による「たこ焼き」が、もっともポピュラーな「たこ焼き」といえるのかもしれませんが。

◆「たこ焼き」のルーツいろいろ

前出の辞書には、刻んだ蛸を加えるとありますが、「たこ焼き」のたこは刻むというよりも小さく切るといふほうがぴったりのようで、小さく切った中でも「あの店のたこ焼きのほうが大きいたこが入っている」などと、大きさ比べをする声が聞かれるのもまた「たこ焼き」ならではです。

では、たこ焼きらしき食べものが誕生した当初、たこは具材に入っていたのでしょうか。

もし、たこ焼きにはたこが不可欠だと考えるなら、明治の終わり頃からあるという明石(※)の「玉子焼き」が「たこ焼き」のルーツといえるのかもしれませんが(※明石は兵庫県の地名)。

一方で、大阪生まれの「ラジオ焼き」がルーツだという意見もあります。ラジオ焼きの具はこんにやくや牛すじ、えんどう豆などで、当初たこは入っていなかったそうです。ところが、「明石ではたこが入るとる」という客の声を聞いてラジオ焼きにもたこを入れるようになり、名実ともに大阪の「たこ焼き」が誕生したということのようです。因みに、ラジオ焼きは醤油味で、「たこ焼き」にソース味が登場したのは戦後のことだといえます。

◆庶民の工夫の産物

もののない時代、手軽に手に入る安い材料で簡単にうまいものを作るか。「たこ焼き」は、そんな庶民の思いから生まれた息の長い人気食品だといえます。

ご存じですか？

伊能忠敬

私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きっとこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

* *

今回は、歩いて日本地図をつくった伊能忠敬についてご紹介しましょう。



■幼少期の忠敬

忠敬は、延享2年（1745年）、上総国山辺郡小関村（現・千葉県九十九里町）の網元の家に生まれます（幼名は三治郎）。6歳で母を亡くした後、幼少期の忠敬については記録も少なく、諸説ある事項もあります。しかし、幼い頃から算術が得意で、物事をしつかり観察する利発な子どもであったことは確かかなようです。

家業を手伝いながら、夜に星を眺めては宇宙の不思議に好奇心を膨らませる日々で、後年「伊能忠敬」となる予兆は、この幼年期にすでにあったと思われる。

■夢を叶える第二の人生

宝暦12年（1762年）、17歳の忠敬は、酒造りや川船での運送業などを営む下総国佐原の豪商伊能家に婿入りします。当主が早世し、後継ぎ娘の婿として白羽の矢を立てられた忠敬は、その期待に応えるべく商才を発揮して家産を増やし、寛政6年（1794年）、49歳で隠居をして長男に家督を譲った際には、一説に、現在のお金で50億円にも上る資産があったといわれます。

翌寛政7年、50歳にして江戸に出た

忠敬は深川黒江町（現・江東区門前中町）に居を定め、幕府の天文方暦局（江戸幕府の職名で、主な仕事は暦をつくること）に勤める天文学の若きホープ高橋至時の弟子となります。このとき至時は31歳。自分よりも19歳も若い師のもと、忠敬は念願の学問に邁進する日々を送り、やがて、年の離れたこの師弟は深い絆で結ばれるようになるのです。

葛飾北斎の作品「鳥越の不二（富士）」には、浅草にあった天文方暦局の天文台が富士山を背景に描かれています。至時はそこに住み込んでいたといいますから、忠敬も頻繁に訪れていたと思われる。

■測量の始まりと陰の目的

第1次から第10次まで、足掛け17年にわたる忠敬の測量旅が始まったのは、寛政12年（1800年）のこと。出立当日の朝、55歳の忠敬は住まい近くの富岡八幡宮に参拝し、至時に挨拶をすませた後、千住から奥州街道を蝦夷地（北海道）に向けて歩を進めたといえます。

ところで、至時と忠敬の蝦夷地測量計画には、幕府には「内密」の大きな目的がありました。北方から帝政ロシアの勢力が迫ってきていたこの時代、

幕府は日本を護るために蝦夷地の正確な地図を必要としており、それに応えるかたちで、至時は蝦夷地の地図作成を幕府に申し出たのですが、その本当の目的は「地球の大きさを知ること」にありました。

当時、地球は丸いということはすでに知られていましたが、その大きさにについては分かっていませんでした。そこで、2つの離れた地点（ここでは江戸と蝦夷地）で緯度を調べ、その緯度の違いと2つの地点の距離を調べて計算すれば、緯度1度分の距離が分かり、結果的に地球の大きさも分かると考えたのです。

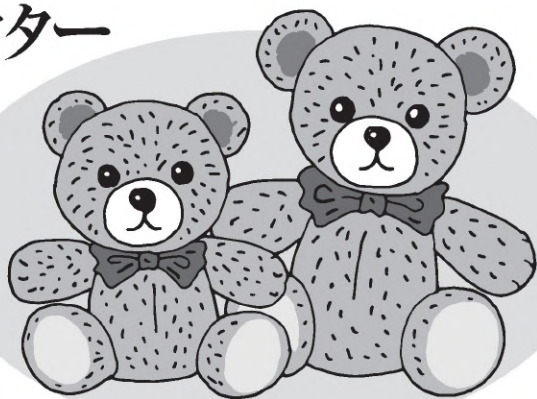
■完成した日本地図

当初の目的はどうあれ、文化13年（1816年）江戸府内の測量を最後に全国測量の旅を終え、忠敬は『大日本沿海輿地全図』の作成に取りかかります。しかし、文化15年／文政元年（1818年）忠敬は地図の完成を見ずに世を去り、それから3年後、門弟たちの努力で『大日本沿海輿地全図』（計225枚）及び『大日本沿海実測録』（全14巻）が完成し、幕府に上呈されます。因みに、それまで伏せられていた忠敬の喪は、このとき初めて公表されたといえます。

伝 統 の モ ノ

テディベア

世界中で愛される キャラクター



テディベアの生みの親

いま日本では人里に出没するクマ (bear) が大きな問題になっています。ですが、クマは古来人間の暮らしに深く関わり、民話や伝説にも登場してきた動物です。また、子どもの絵本などにも擬人化した愛らしいクマが描かれ、クマをモデルにしたグッズもたくさん作られています。なかでも「テディベア」は、その愛され度において特別な存在といえるかもしれません。

まん丸い瞳にかわいい口元、その愛らしい表情を目にすると、思わず抱きしめたくくなるような癒し効果が「テディベア」にはあるようです。

のちにこの「テディベア」の愛称で知られるようになるクマの縫いぐるみの原型を作ったのは、縫いぐるみブランドとして世界最古の歴史を誇るシュタイフ社というドイツの会社です。

創業者のマルガレーテ・シュタイフは、1847年にドイツ南部の小さな村に生まれました。幼い頃から手足が不自由で車椅子生活をしていましたが、活発な性格だった彼女はハンディキャップを克服して洋裁学校に通い、

家族の協力のもと、フェルト製の家庭用品などを作る小さな店を開きます。

ある日、マルガレーテは雑誌で見たゾウのイラストを参考に、フェルト製の「ゾウの針刺し」を作ったところ大評判となります。そこで、マルガレーテの仕事を支えていた甥の一人リチャード・シュタイフが、自分で描いたクマのスケッチを彼女に見せて、本物の毛皮のような素材でクマの縫いぐるみを作ろうと提案します。ふたりで試行錯誤の末ついに1902年、「テディベア」の原型となる首と手足が動く縫いぐるみ「55PB」(Pはフラシ天Ⅱ毛足の長いピロッド地を、Bは「動かせる」を意味するドイツ語の頭文字)を完成させたのです。

テディベア・ブームの到来

1903年、ドイツの見本市に出品された「55PB」は、アメリカ人バイヤーの目に留まり、3000体もの注文を受けることになりました。そしてこのことが、テディベアの爆発的ブームの始まりとなったのです。

当時、アメリカのおもちゃ屋はこのクマの縫いぐるみで埋めつくされ、クリスマスには、あらゆるものがテディベアのキャラクター一色に染められたと伝えられています。

「テディベア」名前の由来

「テディベア」の「テディ (Teddy)」の由来についてはいくつかの説があるようですが、現在よく知られているのは、アメリカ合衆国第26代大統領ルーズベルトのファーストネーム、セオドア (Theodor) の愛称によるということです。

「テディベア」の原型「55PB」が誕生したのと同じ年の1902年、ルーズベルトは趣味の狩猟に出かけたものの収獲はゼロでした。そこで同行者が気を利かせて、すでに捕らえられて弱っていたクマを大統領のもとに連れてきて「代わりにこのクマを撃つてはどうか」と勧めますが、大統領はそれを断ります。このエピソードは翌日の新聞で報じられ、ルーズベルト大統領といえは「クマ」を連想するようになり、のちに大ブームになったシュタイフ社のクマの縫いぐるみも、大統領の愛称を冠して「テディベア」と呼ばれるようになったということです。

競って作られた「テディベア」

「テディベア」は、シュタイフ社のほかにもアメリカやイギリス、日本の会社などでも作られるようになり、愛好者は世界中に広がっています。

「スイレン」

「スイレン」といえば、クロード・モネの絵を思い浮かべる方も多いと思います。「スイレン」は水生多年草の総称で、温帯から熱帯に広く分布し、大形の美しい花をつけることから観賞用に栽培されるものも多く、園芸品種もたくさんあります。しかし、日本の池や沼で自生するスイレン属は、「ヒツジグサ」とその変種だけだといわれます。

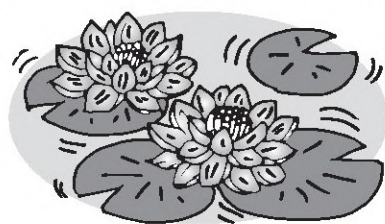
「スイレン」の和名は、漢名の「睡蓮」に由来しますが、英語名は、百合の花に似た水生植物ということから「water lily」あるいは「pond lily」といいます。

古代エジプトでは、ナイル川

に自生する「スイレン」を聖なる花とし、壁画や彫刻、また建築物や工芸品などのモチーフに好んで用いられたと伝えられます。因みに、「スイレン」は現在エジプトの国花となっています。

「スイレン」にまつわる話としては、恋人との仲を裂かれた美しい乙女が、湖に身を投げて「スイレン」になったという伝説もあり、花言葉も、哀れな乙女を想つてのものかもしれません。

*花言葉……「純粋な心」「清浄」など。



食堂

一般に「食堂」といえば、食事をする場所のことをいい、会社の食堂、デパートの食堂あるいは我が家の食堂……というように使われます。また、駅前の食堂などといえば（レストランとは違った）庶民的でアットホームな雰囲気伝わってきます。

この「食堂」は、もともとは仏教語で（じきどう）と読み、お釈迦さまの時代からあった古い言葉だといわれます。

「七堂伽藍（寺院の主要な七つの建物）」と言い表されるように、古く奈良のお寺では、金堂（本堂）・講堂（説法などを行う建物。禅宗では法堂といいますが）・塔・鐘樓・経蔵（經典を納める建物。経堂ともいいます）・僧坊（僧房とも。僧が起居する建物）・食堂（僧が食事をするための建物）を七堂といいました。

しかし、宗派によって「食堂」を七堂から除外するなど、各宗の教義信条によって寺院の中で尊重する建物が違っている場合もあるようです。とはいえ、仏道修行においては、食事をすることも大切な修行のうちです。いまでも禅寺の食堂などでは厳粛な規律のもとに食事がなされています。



葬儀と告別式の違い

近年では一般に「お葬式は何時からですか？」というように、「葬儀」と「告別式」を区別せずに、お葬式という言葉で表すことが多くなっています。また実際に、このふたつの儀式を一體（ひと）に纏めて行なうケースも増えていきます。因みに、「葬式」という言葉は「葬儀」の葬と「告別式」の式を合わせたものだといわれます。

しかしながら「葬儀」と「告別式」は本来別の儀式で、「葬儀」は字の如く、死者を葬る儀式をいい、遺族や近親者が故人の成仏を願って執り行うものです。一方「告別式」は、死者の霊に別れを告げる儀式、つまり、故人とご縁のあった方々が最後のお別れをするための儀式です。現在では、遺族や近親者だけでなく一般参列者も「葬儀」に加わって、そのまま「告別式」に参列するというように、各々の儀式にはつきりと線引きをしないのが一般的になっているようです。（※葬儀と告別式につきましては、個々お葬式により、また地域によって異なる場合があります）

